

## はじめに

独立行政法人日本学生支援機構では平成 16 年 4 月に発足して以来、大学等における学生支援を先導する中核的機関として奨学貸与事業、留学生支援事業及び学生生活支援事業を通じて、時代の社会を担う豊かな人間性を備えた創造的な優れた人材の育成に寄与してまいりました。

さて、平成 20 年度に文部科学省から「教育の機会均等」の一層の促進を図ることを目的として、「障害のある生徒の進学・支援のための高大連携の在り方に関する調査研究」（障害学生受入促進研究委託事業）に関する公募がありました。これは当該調査研究結果等に基づく情報提供や効果的な取組の普及に努めることにより、大学等における障害のある学生の受入促進、支援を図ろうとするものです。

本報告書は、先の文部科学省の事業は本機構の趣旨に沿うものとして応募し、採択され、以来 3 年間にわたり障害のある学生への新たな学生支援の取組に関する「高大連携の在り方を踏まえた効果的な取組を調査」した結果を取りまとめたものです。

本報告書の内容は大別して、教育委員会等へのアンケート調査及び訪問調査と障害学生に対する支援実績のある 7 大学が行なう調査研究成果を掲載しています。前者は、全国の教育委員会が把握している各高等学校及び特別支援学校での障害のある生徒に対する指導と支援の現状を調査し、後者は、それぞれの大学等の障害のある学生への取組方針を踏まえたうえで様々な角度から「高大連携」の在り方についての調査研究を行なったものです。それぞれの調査研究の成果は、本機構のホームページでの公開やシンポジウムの開催において広く情報提供しているところです。

本報告書を通じて、全国の大学等に障害のある学生の受入促進、支援に関する情報を提供し、効果的な取組の普及を行なうことにより、障害のある学生の修学支援の充実につながることを祈念するとともに、本事業にご協力いただきました数多くの皆様に厚く御礼を申し上げます。

平成 23 年 3 月

独立行政法人日本学生支援機構  
理事長 梶山 千里